

## 製造加工している途中の 物品を処理する場合は？

慣れないうちは取引があったとき、どんな勘定科目で処理すればよいのか、悩むケースもあるでしょう。そうした勘定科目の取扱いについて、新人さんと一緒に、事例をもとに学んでいきましょう。



**先輩：**工場の現場を見に行ったら、棚卸の重要さはわかったかな？

**新人さん：**はい、完成品や原材料の在庫を確認する作業が本当に大変そうでしたが、適正な損益計算には必須の作業だと理解しました。

**先輩：**それなら、見に行った甲斐があったね。ところで、完成品や原材料以外に製造過程にあるものも棚卸しないといけないのに気がついたかな？

**新人さん：**え！ 製造している途中のものもですか？  
出来上がっていないものをどうやって数えるんですか？

### ○解説

「仕掛品」とは、販売を目的とする物品の製造過程にあって、現在、仕掛中のものを処理する勘定科目です。

「仕掛品」は製造途中にある物品という点で「半製品」と同様ですが、中間的製品として貯蔵中で、販売できる状態にある「半製品」とは異なり、単独で販売することができません。

「仕掛品」の評価は、適正な原価計算によって算定されます。

原価計算では、製品の製造にかかった原価要素を費目別（材料費、労務費、経費）に集計し、計算された各原価要素の発生額を「仕掛品」勘定に集計します。その後、当期の完成品分を当期製品製造原価として「製品」勘定に振り替えます。

「仕掛品」は、原価計算において、製造過程にある「原材料」「半製品」「製品」との区別が重要になります。たとえば、倉庫から材料を製造工程に出庫した時点で「仕掛品」とし、製造工程から製品倉庫に入庫した時点で「製品」とするなど、具体的に社内でルールを決めておく必要があります。

「仕掛品」は製造工程の途中にあるため、業種や工程の進捗によって、その形状は異なります。ソフトウェア業では、販売目的で制作中のプログラムなどのソフトウェアを一般的には「仕掛品」で処理します。他方、「仕掛品」は業種によって科目の呼び方が異なる場合があります。たとえば、建設業では「未成工事支出金」、造船業では「半成工事」と呼んでいます。

### ケース1 発生した原価を集計する場合

個別原価計算を採用する工場で、製品Aの製造指図書 No. ○○によると、製造のために発生した費用は、材料費300万円、労務費400万円、経費100万円であった。

【借方】仕掛品	8,000,000	【貸方】材料費	3,000,000
		労務費	4,000,000
		経費	1,000,000

### ケース2 製品が完成して入庫した場合

製品Aの製造指図書 No. ○○（仕掛品800万円）が完成した。

【借方】製品	8,000,000	【貸方】仕掛品	8,000,000
--------	-----------	---------	-----------